



TITLE:

海外日誌(十九)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 海外日誌(十九). 天界 1924, 4(46): 406-410

ISSUE DATE:

1924-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160176>

RIGHT:

海外日誌 (十九)

山本一清

三月十九日(水)

今朝 天文臺にはウイルソン山天文臺からハブル氏が訪れて來てゐたシヤブレイ臺長は大に接待してゐる。聞けばハブル氏は新婚旅行で歐羅巴へ行く途中ださか。

午後、ホストンのトリモント會堂で「六日の後」といふ舊約活動畫を見る。

今夜もまたエディ氏の演説をブルクス館で聞いたが、戦争原因の解決」は大して新しくもなかつた。

三月二十日(木)

今日は當ハバード大學の前總長エリオット氏の第九十回誕生祝賀で學内は例にない御祭り騒ぎをしてゐる。自分等も、群集と共に午後三時からメモリアル堂の入口の景氣を見てゐたが、三時半、幸ひにし堂内サンダース劇場に入場することが出来、前大統領タフト等の列席する盛大な此の式の有様を見た。

夜も亦その續き。自分等はミス・カノンの招待により、サンダース劇場で開かれる記念大音楽會をきに行つた。

三月二十一日(金)

今日は、正午過ぎ、ホストン市WNAC局からの電報でキングス教會の禮拜式をきいた中に、説教は天文家として有名なJHメトカーフ牧師の「天然と默示」であつた。此の奇しきな經驗を、直ぐに、メトカーフ氏に手紙を書いて知らせた。

午後、天文臺で、シヤブレイ氏の紹介により、スエーデンのウパサラ大學教授シャリーエー氏の來訪せられたのに會つた。

「二年程前、日本で私共は貴下の御出になるのを待つてゐました」
と言へば、

「有難ふ。日本へは近い内に参ります」
と言つてゐられた。——老人ではあり、よほど旅行で疲れてゐられる

三月二十二日(土)

春の休暇を利用して、マウント・ホリヨーク女子大學のミス・ヤンが當天文臺で來られた。春の變光星學會の集會などについて、カンベル君と相談などしてゐられる。

夕方、宅へミス・ヤンがミス・カノンを兩女史を招き、英子の作つた西洋料理を饗應した。大喜び。

三月二十三日(日)

朝、アバルトン會堂で禮拜。其の後二三氏と散歩。

今日は南ホストンの濱で世界第一の六萬噸船レブアイアサンの内部が一般に公開せられるといふので、自分等も、藤原氏と三人連れて見に行く。途中、ハバード廣場から最早既に大混雑。いよく濱に着いて見れば、全く名狀の出来ない人出である。押し合つて柵へ入る時など、殺されるかと思ふほどの込み方であつた。四時頃、漸く目的の巨船内に案内され、BデッキからGデッキまで、何所を見ても宮殿のやうな立派さに驚く。こんな船で歐羅巴に渡りたいとは思はないが、
「とにかく、レブアイアサンに乗つて見たいんだ」
と、獨り、うなづく。——全く、それには違ひない。(死ぬ思ひをして阿々。)

三月二十四日(月)

午前中、天文臺。

正午、WNACの電波でキングス教會の禮拜例の通り、今日の説教は、シカゴ大學のソーレス教授の「諷刺畫家としての豫言者アモス」。

興味ある説教であつた。
午後、ホストン行き。マセステク劇場で近頃評判の「アメリカ」を見ろ。米國獨立戦争の歴史畫であるが、自分等としては、先日、レキシ

ントン、コンコード邊りを見ておいたので、此の畫は殊に面白かつた中にも、レキシントン村の廣場で、英國の正規兵と米國の土民とが火蓋を切るところは最も印象的であつた。

三月二十五日(火)

午前中、天文臺。

午後、二人で室住氏の病氣見舞。

夜 プルクス館でニウヨークの牧師ストラトン氏の「進化論と神」と題する演説をきいた。フアンダメンタリスの大家者であるから、随分ひどい論をしたが、平生おこなしいハーバードの若者たちも之れには黙つてゐられないと見え、いざ質問の時間となつてからは、やるやる。見てゐて氣の毒な程、牧師はやり込められた。慘々であつた。

三月二十六日(水)

漸く小マゼラン雲の第三十五野附近の變光星二十八個の測定を終つた。これから變光週期の研究にかゝる。

午後四時半から、シヤブレイ氏宅でテイの會。天文臺の内輪の者ばかり水入らずの世間話に興じた。英子も參列。

此の日、始めて理學史家として有名なジョシ・サートン氏の來訪を受けた。

三月二十七日(木)

約束により、朝十一時から、ワイドナー圖書館の一室にサートン氏を訪ひ、一時間ばかり、サイエンスの歴史について話した。サイエンスの發達の史的觀察について、自分とは少しく意見が合はない。サイエンスの國に居ては却つてサイエンスの大觀が出来ないのだらうと思つて見る。東洋人の使命は此の方面にもあるんだ。

正午、厚紙でレデオの高聲ラツパ管を作つた。成績良好。今日から午餐と夕餐とはW.N.A.C.局からのオーケストラを聞きながら食べることにする。結構な話だ。

三月二十八日(金)

別に變つたことなし。

三月二十九日(土)

朝十時、大學のワツウオス館にシカゴ大學のソーレス教授を訪問。基督教の神祕的方面に關して考へるところを述べ、大に勵まされた。と同時に、豫想の如く、現代の米國プロテスタント派が民心を失ひつゝある事情を確めた。

午前、室住氏、午後、加藤氏來訪。

三月三十日(日)

朝アブルトン會堂で禮拜。午後在宅。

夕方、招かれてミス・ホートン方へ行き、晚餐の饗を受け、九時頃まで爐火の側で談笑。カーシヨー夫妻及びミス井上もゐられた。

三月三十一日(月)

午後五時の物理學談話會には、ケンブル氏が最近の磁氣學説を紹介せられた。

夜、レデオのアンテナについて種々實驗。遂に、アンテナも地下線も無くて、コイルだけで相當に電波を受けることを知つた。

四月一日(火)

英子は疲れて就床。食事は自分が朝から準備した。

夕方には室住、後藤田兩氏を招いて晚餐を共にし、後、十時頃まで話し。外は大風雪。

四月二日(水)

天文臺では例の通り小マゼラン雲變光星の週期研究。

夜、感波結晶を用ゐてレデオ受信裝置に成功した。

外は又々冬景色に返つて了つた。

四月三日(木)

今日からスーパードイン式の無電受信裝置を組み立て始める。

四月四日(金)

カンザスのエルガイ氏から、目下回覽中のカタリナ島日食隊の幻燈畫が一箱送つて來た。先づ宅に持ち歸つて開けて一通り目を通す。皆ブサ大學の會の時に見た活動畫から作製したものらしい。よく出来てはゐるが、畫題の撰び方を、もう少し何となく好まそうに思ふ。

ーさにかく、一覽後、ミス・カノンに渡す。

四月五日(土)

暖かくて外套無しに街路をあるく。英子は疲労殆んど全快。午後から起き上つて、晚餐には水野室住兩氏におはぎなど作つたりした。

四月六日(日)

朝十時頃、散歩して、ハーブード大學のヤードへ行つて見ると、マサチュセツ館の三階に火事騒ぎがあつたさ見へ、多數の人々がさわつてゐる。蒸氣ボンブも七八臺集つて來てゐた。

午後、在宅して、レデオ用のコイル巻きなごす。

夜八時から近くのエプチラス・メッテスト監督教會へ招かれ行き、青年の集會に列席した。大して面白いことなし。九時から社交的な二次會が開かれたが、自分は辭して歸る。

夜、室の電燈線をレデオ用のアンテナに使つて見て、案外役に立つことを實驗した。

四月七日(月)

天文臺では、やはり、小マセラン雲の變光星のつぎき。

午後、スーパ・オートダイナ式のレデオ受信裝置を作つて成功した。どうした故か聲量が少し弱く、それに電波の撰擇も餘り好くない。

四月八日(火)

ひるから、レフレキス式の無電受信を思ひ立ち、手製の感能コイルで組合せて見たが、之れは不成功に終つた。コイルの蓄電機能がきいてゐるらしい。やはり之れは買はねばなるまいか。

夜、天文臺のミス・ウツに案内されて、ケンブリヂ女子青年會館の公開に行き、室々の模様や、若い婦人たちの製作品の展覽などを見た。案外遅くなつて、十一時に歸宅。

四月九日(水)

朝から天文臺。

夜、バートランド・ラセルの講演をブラク夫妻が聞きに行かれるので英子は留守番に雇はれて行く。

四月十日(木)

夜八時から、ブラク氏の好意により、入場券を貰つて、大學のサンダース劇場へ例月のホストン・オークストラを聞きに行く。かれて待つてゐた仙臺の本多教授が急に當地へは來られなくなつた由。

四月十一日(金)

午前中は天文臺。午後はホストン行き。六時から柳川亭で日本人學生の例月の晚餐會に出席。

目下ワシントン府の議院でやましい移民法案、特に日本人移民絶對禁止案に對し、埴原大使が國務卿ヒュズ氏へ抗議的の手紙を送つたことが新聞に發表された。

四月十二日(土)

午前中は天文臺。

午後、エズレットのメソテスト監督教會で、外國學生親睦團主催の下に開かれる東洋學生聯合懇談會へ出席するため、正午から、ホストンYMCAの自動車に乗せられて行く。會は午餐會に始まり、次でロクワッド氏座長、アトソン氏庶務、北澤氏書記となり、弟エディ氏の演説あり。其の後「基督教と國際問題」と題して討論に移る。主として論じたる者は日本人支那人と朝鮮人であつたが、さかく政治問題に入つて行く傾向が好くなかつた。夕食の席上で、各自、自己紹介。それから、出席者數國より、印度人、ヒリピン人、朝鮮人、米國人、日本人、支那人の順で、一つ／＼餘興なごす。

夜はエズレット及びマルデン市内に分宿。へ自分はマルデンの一ホテルに割當てられた。

四月十三日(日)

朝九時半から昨日の教會堂で懇談會をつゞけ、先づ基督教の信仰經驗について各自話す。十一時から同教會の一般會衆と共に聖餐式を守る。それから暫く散歩。

午後三時から、又、懇談會をつゞけ、五時閉會。

全體として評すれば、此度の東洋學生懇談會は面白い催しであつた日本人側もよく論じた。支那人が一般に米國人の態度を手酷しく攻撃したのは少々意外であつた。朝鮮人の論法は例によつて例の如し。總じて東洋人が米國から傳はる基督教に満足してゐないことは明らかに表はれてゐた。意味深いことだ。

日本人學生の中、自分等四人は、歸途招かれてチエルジの第一組合教會に行き、晚餐を饗された後、各自立つて一言づつ、日本に關する演説をした。

昨日、日本人絶對拒絕案が下院を通過したとて、社會は少し騒いでゐる。

四月十四日(月)

暖かいのを通り越して、むしろ暑いほどの氣温であつた。自分は、終日、天文臺で變光星研究。

四月十五日(火)

正午、第二のレデオ増音器を作る。

夜八時から天文クラブの第二回が開かれ、アレン氏の反射鏡の話、次でミス・カノンの南天星の話があつた。ついでに、昨年のヤーキース天文臺カタリナ日食遠征隊の幻燈畫が紹介された。

四月十六日(水)

午後、室住氏來訪。

四月十七日(木)

午後六時、二人はミス・ワツに招かれて、ロングフエローの作に名高いゲイレンシ・ブラックスシス館(プラトル街)へ行き、ミス平野、及びミズインマンと總勢五人で晚餐をいたゞく。家の外觀に似合はず、きれいな食堂であつた。英子の日本服は皆を喜ばせた。

今日、試験中、レデオの眞空管を一つさも焼いてしまつた。

四月十八日(金)

午前中、天文臺で研究。なれて来るにつれ、變光星の週期計算が速くなつて来る。

午後、ボストンのステewart街へレデオの眞空管を買ひに行つた。いつの間にか、管の價が頗るやすくなつてゐる。

夜八時から、家で日本人基督協會のハーブード地方會を開き、九人出席。各自の信仰經歷談など話す。

四月十九日(土)

昔し一七七五年四月十九日のレキシントン、コンコードの戦ひを紀念するため、今日は例年の通りマサチューセツ州の休日である。ボストンや近郊では種々の歴史的な催しがある。午前十時過、自分等二人がケンブリヂ・コンモンの門の邊りを散歩して見る。恰もキリアムドリスに扮した騎馬の一隊が、ブルクラインからレキシントンに向ふ途中、當地に着くところであつた。市長や其他の顔役が騎者と芝居がつたことをして見せ、ボーイ・スカウトが此の式を警衛するなどの場面は面白かつた。

四月二十日(日)

朝、大學のアブルトン會堂で禮拜。有名なヒウ・ブラク氏の説教があつた。

午後是在宅。旅行用のレデオ装置を作る。

夕方、後藤田氏の招待により、室住、加藤兩氏と共にボストンの支那食店に行く。七時歸宅して見れば春日井氏が日本音樂のレコードを持つて來訪せられたので、夜遅くまで久しぶりの日本氣分を味はふ。八時過からは田中峰屋上井諸氏も來られ、可なり賑やかであつた。

四月二十一日(月)

午後、貸間さがしに散歩。トロリーブリヤ、オクスフォードからリニア街あたりまでも歩いたが、遂にハーグード街三六二のハルバード夫人方の二階に決定。それから、一寸、田中氏方を訪問。

午後六時から大學コロニアル・クラブ内で催さる、エーレンフェスト教授(オランダ國ライデン大學物理學教授)の歡迎晚餐會に出席。集るものは物理學者ばかりで三十人程であつたが、頗る打ち解けたもの

であつた。晩餐の席上、エーレンフェスト教授は一ジヤイロスコープの理を數學無しに教へる方法について話されたが、食事がすんで、別室に移つてから、理論物理学の色んな質問に應じて、十時頃まで話された。有益な、又、興味ある夕であつた。

四月二十二日(火)

今日はハーブード街へ移轉するので、朝から荷物を纏めたりなど忙しかつた。天文臺へは十一時頃一寸顔を出したきり。正午過、室住加藤兩氏が手傳ひに來て下さつた。その中、午後二時半になつて、今ニウヨーク市のワルドルフ・アストリアで大統領クリーガ氏が聯合通信社の招待會席上でする演説がWEAF局から電波によつて放送されることになつてゐたため、自分等も、移轉の荷ごしらへを暫く中止、交る受話器を耳にあて之れを聞く。クリーガ氏の聲は、寫眞で見た顔付に似合はず、ごつしりと重みのある、幾分錆びた聲で、立派なものだ演説は、皆の豫期に反し、日本人排斥問題には觸れなかつた。

午後三時過、荷物を車につませて、移轉。四時無事に終る。

四時から室住氏と、ジェファソン物理教室へエーレンフェスト教授の講演をききに行く。題は量子論であつたが、プロバビリテイの事を長く説かれた。暗示に富んだ點が多かつた。

四月二十三日(水)

新しい宅は天文臺へ少し遠いので、今日からは往復とも、ハーブード廣場から電車に乗ることとする。

今日午後二時頃、加藤春日井兩氏が天文臺へ來訪せられたので、望遠鏡や寫眞などを一通り見せた。

四月二十四日(木)

サンドウィッチを包んだランチを持って、朝十一時から天文臺へ。六時歸宅。之れを今後の日常生活とする。

午後、室住、上井兩氏來訪。

四月二十五日(金)

長く待つた文部省からの學資金が到着した。日本の爲替相場が安い

時なので、送られた金額は壹圓が四十二仙にしか當つてゐない。前期に比べて二割減だ。——渡歐旅費は未着。

午後、二人、ホストン行き。二三買物などしたのち、トリモント會堂で、アレンビー將軍の聖地遠征の活動畫を見る。立派なものだ。かうした、世界大戰に關した實寫畫は何時でも印象的である。

プロヂデンスの宗教々育大會への出席を断念す。

四月二十六日(土)

例により天文臺へ。

午後、峰屋女史來訪。

四月二十七日(日)

アダムス夫人に招かれて、今日はセーラム行き。ところが今日から當地附近は一帯に夏期時間が用ゐられるので、急に不都合なことが多い。朝九時過ぎ、北ステーションへ行つて見れば地方列車の時間割が變更せられて、二時間ばかり汽車便が無い。仕方なく停車場附近を散歩。

汽車は十一時四十五分發、セーラムへは十二時半に着。それから電車でオーシャン街のアダムス氏宅へ行き、同夫妻及びローズモンド嬢を迎えられ、直ちに午餐。それから日本に關する色んな話などす。——

午後三時頃、皆で濱邊を散歩。

午後七時半、アダムス氏宅を辭し、リン市まで電車、それから輕便汽車と渡船とでホストンに到着。宅へは九時頃に歸り着いた。

四月二十八日(月)

夕方、約の如く、ミス・グエールが神戸の見波江女史を案内されて來訪。暫く談話。六時頃、ブラク氏宅まで見送る。

夜、上井氏來訪。

急に寒い。

四月二十九日(火)

小マゼラン星雲の第三十五野の變光星の週期決定を終る。次は第二十四野に移る。